

## 厚生労働省行政事業レビュー講評 議事概要

### 1. 日時

令和7年8月29日（金）17:00～17:45

### 2. 場所

厚生労働省 専用21会議室（17階国会側）

### 3. 出席者（五十音順）

外部有識者：池田委員、井出委員、井野委員、上山委員、大谷委員、大屋委員、加藤委員、坂井委員、島田委員、寺田委員、中益委員、橋爪委員

厚生労働省：吉田厚生労働大臣政務官、総括審議官（行政改革推進室長）、大臣官房会計管理官、参事官（調査分析・評価担当）

### 4. 議事内容

（議題）令和7年度厚生労働省行政事業レビュー講評

厚生労働省から令和7年度公開プロセス対象事業の点検結果、令和7年度外部有識者点検対象事業の点検結果について説明。その後、外部有識者から令和7年度行政事業レビューの取組を踏まえた評価すべき点や改善点について講評。

なお、外部有識者からの講評の主な内容は次のとおり。

（池田委員）

- 医療情報セキュリティ等対策経費は、現地視察の際に事業担当者からの説明だけでなく、サーバールーム等の現場を見ることができ、紙面からは伝わらないリアルな現状を踏まえて議論できたことはとてもよかった。
- 介護テクノロジー開発等加速化事業は、介護分野に限らずテクノロジー関係は省庁の垣根を超えて解決しなければならない問題もあると考えられるので、他省庁とも連携することでより効果的な事業の実施につながると思う。

（井出委員）

- 昨年度に引き続き、今年度も書面審査のみを担当したが、事業の担当者と直接やり

とりしながら進めることができた。記載したコメントについても真摯に対応いただいた。レビューシートも毎年充実しており、評価にあたり、それぞれのレビューシートに見所があった。来年以降もしっかりとフォローアップして、事業をよりよいものにしてほしい。

（井野委員）

- 現地視察において、現場で働く担当者の声を聞くことができたので、事業の実態がつかみやすかったと感じている。一方、視察先の都合もあると思うが、現地視察の時間をもう少しとれるとよい。
- 書面点検ではレビューシートシステムが昨年度より使いやすくなっており、また、レビューシートについても、事業の課題が整理されて記載されており、背景等を理解しながら効率よく点検することができたが、資料を読み込む時間をもっととればよかった。事業担当者には細かい質問にも迅速かつ丁寧に対応いただいた。

（上山委員）

- 公開プロセスについて、現地視察は議論をする上で非常に参考になった。事務局からはマメに連絡をいただき、運営の仕方はとてもよかった。一方で、公開プロセスにおけるやりとりでは質問に正面から答えてもらえず、肝心なところが議論できなかったと感じているため、来年度からはこのようなことのないよう、改善をしていただきたい。
- 厚生労働省に限った話ではないが、公開プロセスに向けた事前勉強会が1回のみでは足りないと感じている。公開プロセス当日の説明で関連事業があることを知った事業もあり、公開プロセス対象事業以外の関連事業・類似事業についても併せて説明いただけると理解がより深められたと思うので、事前勉強会を1回だけにするのであればそのあたりは漏れのないようにしていただきたいし、可能であればもう1回くらい勉強会をやってもいいのではないか。

（大谷委員）

- 本年度から外部有識者として書面審査のみ担当したが、レビューシートについては、事業目的やアウトカム指標についてデータに基づいた説明や効果検証がなされていて、透明性や説明責任の観点からも意義のある取組をしていると感じた。点検にあたり記載したコメントは、事業担当者が成果指標や運営方法の改善につなげようと真摯に向き合っていた。

- 行政事業レビューを契機として、各事業において事業目的を踏まえた目標設定の整合性・妥当性等の検証を行っていることが、国民からも分かりやすく見えるように工夫できるとよいと感じた。

（大屋委員）

- 行政事業レビュー全体としては極めて順調に進行したと感じている。
- 厚生労働省は大きな組織であり、また事業数がとても多く、公開プロセスや書面点検を行った事業については着実に対応しているが、それらを実施していない事業については例年同じ対応をしているように見受けられる。
- 一つの事業に複数の目的が設定されているが、アウトカム指標がその目的の一つにしか設定されていないものが非常に多い。また、労働分野でいうと、就労につながるアウトカムまでは設定しているが、その先のフォローアップに関するアウトカム指標がしっかりと設定されていない事業がある。現場としてはフォローアップをしているのかもしれないが、数字として出ていないという事業が毎年公開プロセスの対象となっている印象がある。公開プロセスで得られた成果をそれ以外の事業にもしっかりと横展開していく努力をする必要がある。

（加藤委員）

- 公開プロセスについては、事前勉強会や現地視察を開催いただき、十分な理解のもとで意見を述べることができた。
- 公開プロセスと書面審査を行ったが、改めて厚生労働行政の裾野の広さを痛感した。行政事業レビューを通して国民全体の健全な生活に資する施策につながる事業を、担当者が苦勞しながら進めていると感じた。
- 書面点検はレビューシートシステムの導入で点検の効率化・明確化が図られており、今年度は昨年度よりも更に使いやすくなったと感じる。来年度についても更なる進化をするよう改善をお願いしたい。

（坂井委員）

- 本年度から外部有識者として書面審査のみ担当したが、レビューシートは資金の流れが詳細に記載されており、効率的に実施されているか等の分析がしやすいと感じた。また、書面審査を通して、国で支援をしていることを初めて知った事業もあり、自身にとっても大変勉強になった。レビューシートに記載した所見については、今後の改善につなげてもらいたい。

(島田委員)

- 厚生労働省は国民のウェルビーイングを包括して捉え、国民・国のために仕事をしている省庁と理解している。公開プロセスについて、現地視察において直接現場の声を聞くことのできる機会をしっかりと確保していただいていることに加え、事前勉強会を欠席した際は個別に説明する場を設けていただき丁寧に実施されていると感じた。一方、事務局の負担を踏まえると録画等の記録を情報提供するのみでもいいのではないかとと思われる。
- 事業担当者とのやりとりを進めていく中で、日々施策を推進している担当者は、各事業は何のために存在しているのかについて考える必要があると感じた。また、各事業を進めていったときに、日本や国民にどのような変化があるのかについてのイメージが厚生労働省内で議論されているととてもよいと思う。
- 行政事業レビューについては、多くの厚生労働省職員の手間や時間をかけて進められているものであるので、そういった取組を行っていることを国民により形で知ってもらえると、職員がやりがいを感じる機会が更に増えるのではないか。

(寺田委員)

- 行政が事業を進める上では、効率性のみを求めるのではなく、憲法的価値等をしっかりと守りながら執行していく必要があると考えている。
- 公開プロセスの実施にあたっては、実際の現場や現状を把握することは事業への理解を深める上で大事なことであり、現地視察がなければ知ることができないので、視察時間に限りはあるが、とてもよかったと感じる。
- 書面審査については、過年度のレビューシートを簡単に参照することができるようになっており、数字もしっかりと追うことができた。非常によりシステム改修がなされていると感じた。
- 行政事業レビューを通して得られた成果は、省庁横断で共有され、活かされるとよい。その際、問題があったことや有識者から指摘があったことについて、時間の経過等で共有されなくなることがないように、適切にフォローアップしていただきたい。
- 外部有識者からの点検で高評価されたにも関わらず認知度が低いような事業は、もっと国民に周知・広報していくとよいのではないか。

(中益委員)

- 書面審査の対象となっている事業については、基本的には一人で点検することにな

るが、短期間で終了する事業の場合、事業に精通していない委員が点検するのみで事業自体が終了してしまうこともありうる。そのため、短期間で終了予定かつ予算規模が大きいなど、重要性の高い事業については、複数の委員で点検することを検討してはどうか。

（橋爪委員）

- 公開プロセス対象事業については、事前勉強会や現地視察を実施いただき、レビューシート等の書面のみからではわからないことを学ばせていただいた。それによって見えてくるものもあり、密度の濃い形で公開プロセス対象事業についてはレビューを行うことができたため、今回得られた知見についてはその他の事業に活用していただきたい。
- 特に、全国的に展開することが求められているような事業について、全国的な数値だけではなく、地域的な状況を把握することも考えて目標設定することが検討課題としてあったが、これは公開プロセス対象事業以外にもあてはまると考えられる。
- 書面審査では、事業担当者とのやりとりを通して今後の改善の助けになればよいと思いながら作業をしていた。また、審査に当たり今年度もレビューシートシステムを利用したが、今年度は通知機能が実装されたため、とても作業がしやすくなったと感じる。

（高久委員）※書面講評

- 行政事業レビューシートを用いた書面点検については、事業の性質などがわかりやすくまとめられており、円滑にレビューを行えたと考えている。一人あたりの負担も昨年度より減少したと思われ、厚生労働省の方々のご配慮に感謝申し上げたい。
- 今回公開プロセスで担当した精神障害者保健福祉対策事業などでは、制度の目的・趣旨に照らして地域間におけるアクセスの差が縮小しているのかも評価すべきと考えられた。この事業に限らず、医療政策においては、結果論としての健康水準の向上と同時に、機会としてのアクセスの担保も評価ポイントとして重要と考えられているので、各事業において必要なアクセスが地域で保障されるような取り組みとなっているか意識すると良いのではないかと。また、今後人口が減少する中で、地域間の差を評価する単位についても、さまざまな事業で異なってくると考えられる。例えば、地域に密着した医療・介護であれば都道府県単位、症例の集積が必要な専門的医療であればより広域な地域単位など、個別事業について、その都度アドホックに決めるのではなく、一定の基準が省内で共有されていると望ましい。

（以上）